

**東京電力福島第一原子力発電所の  
トリチウム汚染水の「海洋放出」方針を撤回し、  
責任をもって陸上で管理することを求める決議**

日本政府は、事故を起こした東京電力福島第一原発の敷地内にたまり続ける高濃度のトリチウムと60種以上の放射性核種を含む大量の汚染水（トリチウム汚染水＝多核種除去設備（ALPS）処理水）の処分に関し、今年4月13日に関係閣僚会議を開き、多くの国民の反対の声を無視して、「海洋放出」方針を決定しました。そして、それ以降2年後の「海洋放出」をめざして、日本政府と東京電力は着々と準備を進めています。

被爆二世は、日本政府が起こした国策としての戦争の結果、広島・長崎でアメリカが投下した原子爆弾に被爆した被爆者を親に持ち、親が被爆した後に、生を授かった子どもたちです。私たちは、親である被爆者が放射線の影響に苦しむ姿を見てきましたし、自らも放射線の遺伝的影響を否定できない核（原爆）の被害者として、多くの被爆二世が過去・現在の健康被害に苦しみ、そして将来の健康不安に怯えています。

国策による福島第一原発の事故によって、多くの被ばく者が生み出され、今も「公衆の被ばく限度（年間1mSv）」を超える被ばくを強いられている人たちがいます。私たちは、原爆による核の被害者として、これ以上ヒバクシャ、放射線による被ばく者を生み出すことを容認できません。

日本政府や東京電力は、国策で進めた原発で重大事故を起こした上に、大量の汚染水を発生させた責任を果たすべきです。福島のみならず全国の、そして世界の人々に、さらなる放射能汚染と被ばくを強いる「海洋放出」に反対する立場から、日本政府および東京電力に対して、

**東京電力福島第一原子力発電所のトリチウム汚染水（ALPS処理水）の「海洋放出」方針を撤回し、責任をもって陸上で管理すること**  
を求めます。  
以上、決議する。

2021年11月27日 全国被爆二世団体連絡協議会主催  
2021全国被爆二世交流会 参加者一同

（連絡先）全国被爆二世団体連絡協議会 会長 崎 山 昇

mail : [nobo-may@asahi.email.ne.jp](mailto:nobo-may@asahi.email.ne.jp)